

福知山魅力 写真で伝えよう

中丹支援学校生 コンテスト目指し撮影

福知山市の魅力写真で伝えようと、府立中丹支援学校高等部(同市私市)の生徒がカメラ撮影に挑んでいる。2025年市民憲章コンテストに使用されるコンテストの入賞を目指しており、生徒たちは「街の良さが感じられる写真」を撮りたいと意気込む。



福知山城の石垣をアップで撮影する生徒たち
(福知山市内記・福知山城天守閣)

1〜3年の13人が授業の一環で、コンテストのテーマ「次世代に機能」を考えた。

9月6日には市秘書広報課の吉良恭蔵さん(38)を講師に招き、撮影方法を学んだ。同じ場所でも時間や構図を変えれば、全く違う写真が撮れる」と助言を受け、トレーニングの機能などを覚えた。



市職員の吉良さん(左)から撮影方法を学ぶ生徒たち。福知山市私市・府立中丹支援学校

撮影は秋晴れが広がった10月17日に臨んだ。生徒らは2班に分かれて市中心部の御霊神社や福知山城、JR福知山駅を巡り、思い思いの場所でシャッターを切った。福知山城ではタブレットがふれないよう地面に伏せて固定したり、石垣やしゃほこを近距離で撮影したりしていた。

3年の桑原那伎さん(18)は「城の美しさを引き立てるため、緑のモミジが城全体を包むような構図に工夫した」と話し、駅のホームで電車を狙った3年の大西翔さん(18)は「鉄道のまわが伝わる写真がうまく撮れた」と満足そうだった。

1人が1作品をコンテストに応募する他、12月に開かれる文化祭で作品展示する。

(松見圭祐)